



# Team KYGNUS SUNOCO



## Round6-SPORTSLAND SUGO

DRIVER : LOIC DUVAL  
CIRCUIT : 1LAP=3.704256km  
RACE : 68LAPS(251.889km)

わずか2戦を残すのみとなったフォーミュラ・ニッポン第6戦は、スポーツランドSUGO（宮城県）で開催された。デュバルはここ菅生を得意としており、今回は予選日を前に金曜日に設けられた30分間のセッションでトップタイムをマークし、幸先の良いレースウィークを迎えた。

9月22日（土）、天候に恵まれ暖かい一日となった予選日は、ノックアウト予選が13:40より行われた。開始時の気温23℃、路面温度34℃。20分間で行われるQ1では、上位13台がQ2へ進出となる。セッションが開始すると、デュバルはユーズドタイヤでコースイン。マシンチェックを終えるとピットに戻り、若干マシンをアジャストすると再びユーズドタイヤでチェック。その後ピットに戻るとニュータイヤに交換し、最終アタックへと向かう。トップタイム1' 07.284を叩き出し、Q2へと進んだ。Q2は14:10～14:17の7分間。Q2に向けてマシンの変更は行わず、開始後2分ほど経過するとタイミングを合わせてコースイン。ここでもトップタイム1' 07.198とさらにタイムを縮め、Q3への進出を決めた。ポールポジションを賭けたQ3は、14:27～14:34の7分間。開始後1分が経過すると全車続々とコースイン。デュバルはさらにタイムを上げてくるかと期待に包まれたが、アタックラップのSPコーナーで痛恨のコースオフ。若干のタイムロスが上位獲得を遠ざけ、1' 07.526で7番手で予選を終えた。

9月23日（日）、朝から小雨が降り続き、午後になっても依然天候は回復せず、15:00スタートの決勝レースを前に全車グリッドにつく頃にはさらに雨脚が強まったため、セーフティーカーによりレースがスタートすることとなった。スタート時の気温18℃、路面温度21℃。4周の間セーフティーカーの先導が続き、5周目より実質レースがスタートした。デュバルはポジションをキープしながらも前車との差を縮め、11周でパスすると6番手に浮上。12周目で他車のピットインにより5番手にポジションアップ。ハイペースのデュバルはすぐに前車に追いついたものの、17周目で若干のコースオフがあり、少し前車と間隔を開けられてしまう。そこからしばらくは周回遅れのマシンをパスするのに苦労しつつ我慢の周回を重ね、37周を終えてピットイン。タイヤは無交換で、給油のみを行い、7番手でコースに戻る。ピットアウト後はファステストラップを更新しながら猛プッシュを続け、上位陣が一通りピットに入った46周で3番手に順位を上げた。50周で前を行く2番手のマシンがピットインした後は、ジリジリとその差を3秒以下まで縮めていたが、58周で他車のアクシデントにより再びセーフティーカーがコースイン。セーフティーカーが留まった5周の間に前車との差はさらに縮まり、64周目でいよいよ再スタートとなったが、前車を捉えることは叶わず3位でチェッカーを受け、最終戦にもつれ込むチャンピオン争いに向けた貴重な6ポイントを獲得した。なお、このレースのファステストラップは、デュバルが49周目に刻んだ1' 22.534である。

⇒ロイック・デュバルのコメント：

「雨で視界が悪く、トラフィックも多かったですが、僕らには良い作戦があったし、レース中のベストラップ獲得が証明しているようにマシンもとても速かったです。7番手からスタートして3位表彰台を獲得できたことはとても嬉しいし、チームを表彰台に上げられたことは良かったと思います。ただ予選Q3で僕自身のミスによって順位を下げてしまったことがとても悔やまれて、あそこでミスしていなければ…とどうしても考えてしまいます。とにかく今日は兄弟チームのカズヤと3-4フィニッシュできたので、次は1-2フィニッシュできるよう頑張ります。」

⇒土屋武士 監督のコメント：

「菅生は、ロイック自身一度も表彰台を逃したことの無いサーキットであり、チームも得意とするコースで、予選ではマシンは何も触らずにロイックに気持ちよく走ってもらおうという状況でした。Q3でほんの少しオーバードライブによるタイムロスがあつてトップを譲ってしまったことは非常に残念でしたが、それは彼自身が最もショックを受けていることで、それをできるだけチーム全体でフォローするつもりで決勝を迎えました。どんな状況でも対応できるような戦略を考えて、実際にベストなタイミングにピットに入れることができ、順位を上げて表彰台を獲得できました。これがロイックの力であるのももちろんのこと、チームが万全の準備で戦えたことの成果でもあり、良いレースだったと言えます。ただチャンピオンドライバーであるロイックをチームに迎えてまだ一勝もできていないというのは屈辱的なので、最終戦に向けては勝ちを得るためにまたしっかりと準備を整えたいと思います。応援ありがとうございました。」

